

平成22年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ タナカ ユカコ
氏名 田中 結花子

研究期間 平成22年度

研究課題名 思春期の男子を持つ父親の子育て意識と子育ての現状—実際の父親像と子育て像

の世代間ギャップ

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	田中結花子	看護学部	講師
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

研究目的は、社会背景の中で現代の思春期の男子を持つ父親が子育てについてどのように考えているのか、また、子どもとのかかわりを実際にどのように見ているのか、といった父親の子育て意識や子育ての現状を概観する。その中で、父親の子育てに対する役割、位置づけといったものについて考えてみる。さらに、父親の子育てに対する「役割」や家庭内における父親の「権威」という視点から、現代の社会背景における父親像を分析することである。さらに、先行研究でおこなった乳幼児を持つ父親との世代間比較を行い、父親像の特徴を明らかにすることを目的とした。インタビュー調査の目的は、質問紙調査の統計的分析から導き出した課題をインタビューという方法によって解明することである。

2. 研究方法等

①アンケート調査を再度、分析する。(22年4月～6月)

②本研究では、インタビュー調査の目的は、質問紙調査の統計的分析から導き出した課題をインタビューという方法によって解明することである。

対象の選定は、愛知県・岐阜県・東京都に居住する質問紙調査対象者のうち、インタビューへの了解が得られた人を対象に、インタビュー調査を行う。夫婦で父親、母親各10名、計20名に行う予定。調査時期は23年2月である。インタビューは基本的に、研究計画書の調査項目にしめた通り行う。必ずしも一問一答形式でたずねることはせず、できるだけ統制されない状態で対象者の方々の子育てに対する規範や子育てに対して与える意味が、当事者の言葉で表現されることを重視する。個人インタビューを行う。

データ収集方法：半構成的面接法を用い、個人を対象とした面接調査を、2010年2月中旬から実施中である。

3. 研究成果の概要

本助成研究の目的としてわたしが設定したのは、思春期の男子を持つ父親の子育てに関するインタビュー調査を実施・分析し、すでに収集、分析している統計データをあわせて、子育てや育児を家族内の女性（母親）が行う体制が維持される仕組みを解明し、現代家族の子育てや育児が男性（父親）および家族の外部にひろがる可能性および、父親像の世代間ギャップが父親の子育て意識や行動にどのような影響があるのかを未来社会における子育て意識や育児の社会的編成について総合的に考察することであった。2008年に愛知県・岐阜県・東京都・宮崎県で実施した質問紙調査「小学生高学年・中学生の男子を持つ父親の子育て意識と子育ての現状」の質問紙調査を分析しなおした。そこから、父親の子育ての知見が導き出された。1)仕事が多くて育児時間が取れない。「家事」に関しては、勤務時間が短くても、「共働き」でも「片働き」でもほとんど「母親」が行っていた。2)父親は「遊ぶ」育児行動は増やすが、「世話」や「しつけ・教育」はあまりしていなかった。3)教育的育児参加の規定要因は、「労働時間」であった。労働時間が短い父親は、「子どもの勉強をみてあげる」行為が多い。労働時間が8時間から10時間勤務の父親が子どもへの接し方は頻度が高く、子育て意識が高い。学歴より「専門的な技術を身につけさせる」ことを重視している。4)全体的に子どもの成長には、9割の父親は満足していた。自分自身の子育てについては、5割の父親が「まあまあ満足」しているが4割の父親が「あまり満足していない」現状がみられた。父親ならではの育児不安や不満も今後個別性をみながら質的に分析が必要であると感じた。5)父親像に関しては、アンケート調査からは分析が不十分であった。6)「属性」と「子育て意識」の関係においては、父親の「1日の労働時間」が影響していた。7)「子育て行動の役割分担」については、「父親の職業」において、「しつけの方針で両親の間でくいちがわないようにしていた」。また、出来るだけ自分がモデルとなって子どもに注意したことを自らも実施して模範となっていた。現在、5組のご夫婦の協力をいただいて面接調査が終了している。あと2組の面接調査が予定されている。

4. キーワード

①父親像	②思春期	③父親の子育て	④意識
⑤世代間	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

今後の研究成果公開予定は23年6月以降予定している。
23年3月質問紙調査内容は、「家族関係学」No30に投稿予定。
23年6月椋山女学園大学の紀要に面接調査結果を投稿予定。
23年6月母性衛生学会の演題発表登録する。